

なぎさ NEWS



対決！「西なぎさ」のスゴカイイソメ

干潟に突き出た煙突を発見！貝殻や落ち葉などが寄せ集められ、ミノムシの“みの”のようにも見えます。実はこれ、スゴカイイソメというゴカイのなかまの巣（棲管）です。管の直径は約1cm。「西なぎさ」では普通に見られる生き物です。しかし、見つかるのは巣だけで、中身の“本体”はなかなか捕まえることができません。掘っても、巣は奥深くまで続いていて、いつも途中でちぎれてしまいます。おそらく、本体はより深くへと逃げているのでしょう。

6月16日の生き物調査では、地中深くへ逃げる前に捕まえるべく、「少しはなれた所から走って巣に近づき、一気に掘り出す」という方法を試みました。そして、ついに本体を捕まえることに成功しました！しおだまりの中にいる個体をねらったところ、本体はまだ巣の入口付近にとどまっていたのです。巣をそとやぶると、赤くフサフサした毛のある、少し光沢のある生き物が出てきました。体の太さは巣の太さにぴったりフィットしていて、ゴカイのなかまとしては大型です。意外なことに、砂の上での動きはあまり速くなかったので、すばやく移動できるのは巣の中だけなのかもしれません。

やっと出会えたスゴカイイソメ。今度はエサでおびき寄せる作戦も試してみる予定です。（教育普及係 宮崎 寧子）



上）煙突!? 下）掘り出した巣

旧江戸川で釣れた変わったナマズ



派手な体色が目立つレッドテールキャットフィッシュ

東京と千葉の境には旧江戸川が流れています。大半をコンクリートで護岸された川ですが、実は多くの生き物がくらしています。

今年の5月、旧江戸川近隣にお住まいの方から、「ウナギ釣りをしていたところ変わったナマズが釣れた」と連絡がありました。そこで、確認のために伺ったところ、ニホンウナギとともに全長45cm程のレッドテールキャットフィッシュが水槽に入れてあったのです。レッドテールキャットフィッシュは、南米のアマゾン川に生息する大型のナマズのなかまです。日本では観賞用として人気があり、ペットショップなどでよく販売されています。大きくなると全長1mを超えるため、飼いきれなくなった人が放してしまったのかもしれませんが。悪いことに、この魚はとても食いしん坊。在来の小魚などをたくさん食べ、生態系のバランスを崩してしまう恐れがあります。レッドテールキャットフィッシュをはじめとする外来種のほとんどは、人間の活動によって持ち込まれています。ペットとして飼うと決めたからには、最後まで責任を持つことが重要です。（調査係 市川 啓介）

なぎさ 生き物ミニ情報

水族園は「西なぎさ」と「東なぎさ」で、さまざまな調査を行っています。今回は、6月4日に行った生き物調査で観察された大きなコメツキガニについて報告します。

●こんな生き物を観察してみよう「びっくり！巨大コメツキガニ」

先日行った生き物調査でのこと。コメツキガニの生息域で大きな穴を見つけました。コメツキガニの巣穴にしては、大きく、高潮線の近くにあったため「他の生き物の巣穴か?」と思いながら掘ったところ、見たこともないような巨大なコメツキガニが出てきました。通常のコメツキガニの甲幅は約1cmですが、このコメツキガニは甲幅が約2cmありました。巨大コメツキガニは、「東京の海」エリアの2階にあるカニの水槽で展示しています。巣穴に隠れていることが多く、いつでも見ることができるわけではありませんが、ぜひ、探してみてください。（教育普及係 野島 麻美）



発見した巨大コメツキガニ（左）と通常サイズ（右）